

(3) 東山小学校

学 校 長 宮川 成也
校内研究代表者 渡邊 真菜

1. 研究主題 自律的に学ぶ児童の育成を目指した授業づくり ～単元デザインの創造とクラウドの活用を大切に～

2. 主題設定の理由

本校の課題として、子ども達が自ら学習を進めたり、学習の中で表現（発言・振り返りを書く等）したりする資質・能力について低学年からの積み上げがあまりなく、十分身に付いていないことが挙げられる。また、タイピングの習得が進んでいない児童もいる。教員の ICT 活用については、量的にも質的にも差が見られ、取り組みの有効性についても認識に差がある。

今年度は「令和の授業を創る」推進プロジェクト『令和の授業 DX』の指定を受けていることもあり、研究主題を「自律的に学ぶ児童の育成を目指した授業づくり～単元デザインの創造とクラウドの活用を大切に～」と新たに設定した。そしてこの研究主題を達成するために、学校全体で取り組むこととして「単元デザインの創造」「教科・領域の目標に沿ったクラウド活用」「振り返りの活用」の3点を年度当初に確認した。

4月からの取り組みとしては、授業DXとは何か、どのような授業を目指していくのか今後の方向性を全員で確認することから始めた。具体的な取り組みを進めていくために各ブロックから社会科・総合的な学習の時間・生活科の3つの研究授業を実施し、協議を行った。3つの研究授業をもとに各学年で実践を行い、実践したことをブロックや全体で共有し、進捗状況を確認してきた。

3. 研究の進め方と方法

(1) 運営

- ①研究推進委員会（研究日のある週の月曜日 管理職・研究主任）
- ②研究部会（知の部会・徳体の部会）
*各部会において企画された取り組みは、研究推進委員会等の承認を得る。
- ③学年部会

(2) 校内研究の持ち方

- ・研究日は毎週水曜日（14：30～16：45）とする。（最終週…定例職員会）
- ・研究日は全教職員による全体研修と各研究部による研究部会等を行う。
- ・研究推進委員会で企画立案し、全体に提案し、共通理解を図り実践していく。

(3) 研究方法

- ・研究授業では西部教育事務所の指導主事を招聘するとともに、低・中・高学年ブロックを中心に教材研究、学習指導案を作成し、指導案検討を行う。
- ・他の公開授業については略案を作成する。



4. 今年度の取り組み

○校内研究授業

| 月 日 | 学級 | 単元名 |
|-------|------|---------------------------------------|
| 6月11日 | 5年1組 | 社会科「日本の国土とわたしたちの暮らし」 |
| 9月17日 | 3年2組 | 総合的な学習の時間 「とび出せ探検隊Ⅰ 東山校区をもっと知りたい！」 |
| 10月8日 | 2年1組 | 生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」 |
| 2月10日 | 1年2組 | 生活科「もうすぐ2年生」 |
| 2月10日 | 4年2組 | 総合的な学習の時間「自然や環境を守る人になろう」 |
| 2月10日 | 6年1組 | 社会科 「世界の中の日本 ～地球規模の課題の解決と国際協力～」 |



5. 成果と課題（○成果 ●課題）

- 教職員の ICT 活用意識が高まり、その分児童の ICT 活用の方法が多様化してきた。授業はもちろん、児童会活動や委員会活動でも使うことが当たり前になってきた。
- スプレッドシートを活用することで、発言が少ない児童の考えもクローズアップされるようになり、活躍の場が増えた。
- ロイロノートのような機能を使って、手軽にアンケートをとったり、集めた情報を共有したりすることで、より関心をもって学習に取り組むことができるようになった。
- タイピングの習得も進み、短時間で自分の考えを表現することができるようになった。
- 振り返りの内容（学び方を振り返る）が学年・ブロック毎にばらばらで統一性がなかった。内容を検討し学校全体で何について振り返るかを決めていく。
- ICT 活用が各教科で身に付けさせたい資質・能力の育成に本当に効果的であったか研究を深めていく必要がある。
- 児童が自分たちの最適なペースで学習を進めるにあたって、児童が自走できるように活動の見通しを示したり、意図的に声がけをしたりする等、教師の役割を見直していく。
- 校内研修の内容や実施計画等、見通しをもって研究を進めていくことができるようにする。